

1 単元について

単元観

小学校学習指導要領第6学年の内容(1)キでは、黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいとしている。

明治維新とは、江戸幕府による幕藩体制から、明治政府による天皇親政体制への転換と、それに伴う一連の改革をいう。当時、「富国強兵」や「殖産興業」をスローガンとして、我が国の近代化は短期間のうちに進められた。この幕末から明治初期にかけての歴史的事象を具体的に調べていけば、我が国の近代化をとらえることができる。

また、明治維新では、西郷隆盛・大久保利通らの働きによって明治天皇を中心とした新政府ができ、諸改革により近代的な政治や社会の仕組みが整った。さらに、福沢諭吉が欧米の思想を紹介し、欧米文化が広く取り入れられ、当時の人々の生活も大きく変化した。そこで、社会や人々の生活の様子をとらえさせるとともに、我が国の近代化に尽力した人々の働きや思いについて考えさせることが大切である。

これらの歴史的事象を絵図や年表、地図等の資料を基に考えることを通して、資料から読み取った情報を基に、時代の様子の特徴や歴史的事象の意味について考える力を育成することができる。さらに、考えたことを、資料を基に説明させることを通して、根拠を明確にしながら自分の考えを説明する力の育成も図ることができる単元といえる。

児童の実態 (男子6名 女子7名 計13名)

【アンケートの結果】

- ・歴史の学習が好きである。 12名/13名
- ・社会科の時間に積極的に発言できる。 10名/13名

【プレテストの結果】

- ・資料から情報を的確に読み取り、比較・関連させながら根拠を挙げて説明している児童 6名/13名
- ・資料から情報を読み取ることはできるが、根拠が不明確な説明をしている児童 5名/13名
- ・必要な情報を読み取ることが難しい児童 2名/13名

アンケート結果から、児童は歴史の学習に興味をもっていることが分かる。しかし、資料の読み取りはできるが、比較・関連させたり、根拠を挙げて説明したりできる児童は約半数である。読み取りそのものが難しい児童もいる。

指導観

- ・幕末から明治維新にかけては、政治や経済の状況、それに伴う社会や国際関係の変化が大変複雑で、急速な展開となっている。そのため、多くの児童にとっては、当時の状況を理解することが困難になることが予想される。そこで、事象にかかわる人物や資料、図表等を効果的に活用し、特にデジタル資料集を活用した授業展開を工夫していく。
- ・歴史の学習では、資料から必要な情報を読み取り、その読み取った内容から歴史的背景を読み解いたり、複数の資料を比較・関連・再構成したりすることが主な学習内容となる。そこで、デジタル資料集等を効果的に活用することで視覚に訴え、資料を基に、根拠を明確にさせながら自分の考えを説明させることで、表現力の育成を図る。
- ・NHKデジタル放送のクリップ等を、導入・展開・まとめの学習場面で積極的に活用し、学習内容と関連する具体的な映像等を提示することで、児童の学習への意欲付けを図ったり理解を促したりする。

2 単元の目標

- 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて関心をもち、意欲的に調べている。
- 調べたことや歴史的事象の意味について考えたことを、資料を基に、根拠や解釈を示しながら表現し説明することができる。
- 資料から分かる情報を適切に読み取り、読み取った内容について熟考したり、複数の情報を比較・関連付けたりしながら、時代の様子の特徴や歴史的事象の意味等について考えを広げることができる。

- 黒船の来航, 明治維新, 文明開化などについて調べ, 明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い, 欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かる。

3 単元の評価規準

社会への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・ 表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航, 明治維新, 文明開化にかかわる人々の働きや外国との関係の変化などについて関心をもち, 意欲的に調べ, 考えながら追究している。 ・新しい国づくりに活躍した人々に関心をもち, 明治政府の諸改革を意欲的に調べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航, 明治維新, 文明開化にかかわる政治・社会の仕組みの変化などについて, 具体的な事例や資料を基に考え, 考えたことを根拠を示しながら適切に表現している。 ・富国強兵の内容や, 国民生活の影響について, 自分なりの意見をもち, 表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航, 明治維新, 文明開化にかかわる人々の働きなどについて, 資料や年表などの各種の基礎的資料を活用して調べ, 調べたことをノートや作品にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航, 明治維新, 文明開化にかかわる政治や社会の仕組みの変化, 産業の発達と外国との関係の変化などをとらえている。

4 指導計画 (全5時間)

次	小単元	学習内容	主な評価項目				評価規準 (評価方法)	提示するオブジェクト (教科書, 社会科資料集, NHKデジタルクリップ)
			関	思	技	知		
一 (3)	黒船の来航と鎖国の終わり	<ul style="list-style-type: none"> ・米船渡来旧諸藩土固之図等の資料を手がかりに, 人々の様子やペリーが日本に来た目的について調べる。 ・開国すべきかどうか自分なりの考えをもち, 表現する。 (本時) 	○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・黒船が来航した時の様子について調べ, 当時の時代背景や国際関係から, 開国すべきかどうかについて自分なりの考えをもち, 表現している。【思】 ・時代の変化のきっかけになった黒船来航について関心をもち, 意欲的に調べている。【関】 (発言・ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「米船渡来旧諸藩土固之図」 ・「ペリーの似顔絵」(社会科資料集6年, 日本標準) ・NHKデジタルクリップ「ペリー艦隊」
		<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航から開国までの経緯について調べる。 				◎	<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航から開国までの経緯を, 資料を基に調べノートにまとめている。【技】(ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幕末から開国までの年表」 ・「神奈川に上陸したペリー一行」 ・NHKデジタルクリップ「日米修好通商条約」
		<ul style="list-style-type: none"> ・幕府や藩の政治の失敗や物価の上昇に対する民衆の不満を背景にして, 幕府が減んでいった様子を調べる。 			◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様々な動きに問題意識をもって調べ, 調べたことを基に, 開国から倒幕までの状況を考え, 適切に表現している。【思】(発言・ノート) ・開国後, 幕府への不満が高まり, それが江戸幕府が倒れるきっかけになったことを理解している。【知】 (発言・ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「打ちこわしのようす」 ・「農民の一揆と打ちこわしの件数」 ・NHKデジタルクリップ「大政奉還」
二 (2)	新政府による新しい国づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府が進めた改革の内容に関心をもち, 四民平等とされながらも, 身分の違いが別の形で残されたことを調べる。 	◎				<ul style="list-style-type: none"> ・新しい国づくりに活躍した人々に関心をもち, 明治政府の諸改革を意欲的に調べている。【関】(ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「五カ条の御誓文」 ・NHKデジタルクリップ「五カ条の御誓文」
		<ul style="list-style-type: none"> ・徴兵令や地租改正など富国強兵政策について, 明治政府がそれらの政策を推し進めていった理由について調べる。 ・これらの政策が国民生活への影響について調べる。 			◎		<ul style="list-style-type: none"> ・富国強兵の内容や国民生活の影響について意欲的に調べ, 国民の気持ちや行動について考え, 自分なりの意見をもっている。【思】 (発言・ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸末期の東京のようす ・明治時代の東京のようす ・NHKデジタルクリップ「文明開化」 ・「日本初の鉄道」

5 本時の目標

- 黒船来航に関心をもつとともに、絵図や大統領の手紙等の資料を手がかりに、当時の人々の様子やペリーが日本に来た理由をとらえ、当時の時代背景や国際関係から、開国すべきかどうかについて自分なりの考えをもち、表現することができる。

6 思考・判断・表現にかかわる本時の判断基準

評価規準 (B)	黒船来航の絵図や大統領の手紙等の資料を手がかりに、当時の人々の様子やペリーが日本に来た理由をとらえるとともに、当時の時代背景や国際関係から、開国すべきかどうかについて自分なりの考えをもち、表現している。
(A) の様相	黒船来航の絵図や大統領の手紙等の資料を手がかりに、当時の人々の様子やペリーが日本に来た理由をとらえ、根拠を明確にしながら説明するとともに、当時の時代背景や国際関係から、開国すべきかどうかについて、これまでの日本の歩みと関連付けながら、自分なりの考えをもち、適切に表現している。
(C) への支援	当時の人々の様子や、ペリーが日本に来た理由をとらえたり開国すべきかどうかについて考えたりすることができるように、資料の中で着目すべきポイントを示す。

7 本時の学習指導過程 (1 / 5)

学習活動	指導上の留意点 評価規準 (☆) と方法 ()
<p>つかむ</p> <p>1 「米船渡来旧諸藩土固之図」を見て、話し合う。</p> <p>T 1853年。今の神奈川県のある港の様子です。人々はどうな様子でしょう。</p> <p>C とてもあわてている。</p> <p>C 遠くを見ている。(海から何か来たのでは?)</p> <p>C 攻撃態勢に入っている。(大砲など)</p> <p>C 米俵を運んでいる。(実は米俵ではなく、土のう)</p> <p>C 海の部分に何かあるのかな?</p> <p>T 実はこんなものが来ていました。(マスキングした部分を提示) これが何だか分りますか?</p> <p>C 大きな船。</p> <p>C ただの船ではなく、外国の船。国旗からアメリカかな。</p> <p>C 日本の船と比べるとずいぶん大きい。</p> <p>C 聞いたことがあるよ。黒船というのでは…?</p> <p>T 実はこの船にはペリーと言う人物が乗っていました。ペリーと言う人は…</p> <p>C 何をしにやってきたのかな?</p> <p>2 課題を確認する。</p> <p style="text-align: center;">ペリーはなぜ日本にやってきたのだろうか? (導入課題)</p>	<p>ICT活用のポイント① 左上の黒船の部分をマスキングし、まずは陸にいる人々の様子に着目させるとともに、マスキングされている部分への興味・関心を高めさせる。</p> <p>ICT活用のポイント② 人々の様子について絵図から読み取ったことは、根拠となる部分を、画面上で示しながら説明をさせることで、共通理解を図る。</p>
<p>調べる・考える</p> <p>3 「ペリー」や「サスケハナ号 (黒船)」の資料を提示し、ペリーが日本に来た理由等について調べて考えたことをノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料①「大統領からの手紙」 ・資料②「黒船の大きさ・乗客数」 	<p>ICT活用のポイント③ 教師が、ペリーについて、電子黒板を使ってテンポよく説明を行う。</p>

ねりあう

- 4 各自が調べたことや考えたことを発表する。
- T ペリーはなぜ日本に来たのでしょうか？
- C 大統領の手紙を持ってきた。
- C 日本と貿易をすることを求めている。(つまり開国)
- C アメリカの捕鯨船が事故にあったときに助け、アメリカの船に石炭や食料・水を補給するための港を開くことも求めている。
- T そのほか資料から分かったことはありますか？
- C ペリーは約 900～1000 人を連れてきた。
- C サスケハナ号という船はとても大きかった。
- T そのサスケハナ号の大きさと当時の日本で最も大きかった船を比べるとこうなります。(電子黒板に提示)
ペリーはなぜこんな大きな船で、しかもわざわざ大人数で来たのでしょうか？
- C 日本をおどすため。つまり無理やり開国させようとした。

深める・広げる

- 5 学習内容について、NHKデジタル教材の動画を見て確認する。
※ 視聴する映像は「ペリー艦隊」
- 6 幕府の立場に立って、どのように対応すべきか話し合う。

日本は戦うべきだろうか？それとも開国すべきだろうか？（追究課題）

【戦うべき】

- ・ 開国すると、せっかく禁止したキリスト教が広まってしまう。
- ・ 手紙を見ると、不平等な条約を結ぼうとしていることが分かる。これでは困る。
- ・ これを機会に、アメリカの言いなりになるかもしれない。

【開国すべき】

- ・ 黒船と戦っても勝てるはずがない。たくさんの犠牲がでる可能性がある。
- ・ アメリカに協力して仲良くすればよい。
- ・ 手紙を見ると、捕鯨の基地にするとある。日本にとっても食料が増えていいのでは。
- ・ 開国をして外国の文化を取り入れるべき。

- T 実はみなさんと同じように、当時の大名も鎖国を続けるべきか開国するべきかで非常に迷いました。そしてみなさんのように、賛成・反対に分かれて議論を行ったようです。当時の賛成派と反対派の割合は次のグラフようになっていました。
(その後どう対応したかは、次時の課題とする)

○調べたことは、ノートに簡潔にまとめさせる。

ICT活用のポイント④

サスケハナ号を、当時日本で最も大きかった船と比較する資料を提示し、黒船がいかに大きく、当時の日本人を驚かすものであったかを体験させる。

○黒船の大きさや人数から、ペリーが友好的に交渉しにきたのではないことに気付かせる。

☆時代の変化のきっかけになった黒船来航について関心をもち、意欲的に調べている。【関】
(発表、ノート)

ICT活用のポイント⑤

NHKデジタル教材のクリップを視聴させ、学習内容を視覚的に理解させる。

○黒板にネームプレートを貼ることで、戦うか開国するかという立場を明確にし、議論をさせる。

○人数に偏りがある場合や全員が一方の意見に傾いた場合は、教師がもう一方の立場から意見を主張する。

ICT活用のポイント⑥

日本が鎖国をしたことなど、児童が既習事項を想起し関連付けて説明をしようとした場合、その資料を素早く提示することで、聞き手の児童にも理解しやすくさせる。

☆黒船が来航した時の様子について調べ、当時の時代背景や国際関係から、開国すべきかどうかについて自分なりの考えをもち、表現している。【思】
(発言・ノート)

- 7 当時の人々の様子について知る。
- ・ あせる役人とは対照的に、民衆は見物を楽しんでいたこと。また、そのため幕府は見物を禁止する命令を民衆に出したこと。
 - ・ ペリーには様々な肖像があり、人々が様々な印象をもっていたこと。

まとめる

- 8 学習して分かったことを書く。

ICT活用のポイント⑦

人々の様子についても大変興味深い事実がたくさん明らかになっている。ここでは、資料をテンポ良く提示しながら、教師が簡単に説明する。

8 板書計画

【黒板】

10月21日(金) 〇〇がやってきた!

ペリーはなぜ(何をしに)日本にやってきたのだろうか?

1853年(江戸時代), 神奈川のある港の様子です。人々はどんな様子でしょうか。

「米船渡来旧諸藩土固之図」

- ・ 人があわてている。
- ・ 戦いの準備をしている。
- ・ 土のうをつみあげている。
- ・ 沖に何かが来たのでは?

- ・ 大きな船
- ・ 外国の船(アメリカ)ペリー →

ペリーの肖像画(社会科資料集)

ペリーの似顔絵(社会科資料集)

大統領からの手紙(社会科資料集)

サスケハナ号の想像図(社会科資料集)

- ・ 大統領からの手紙→幕府へ
- ・ 開国をせまる。
- ・ 捕鯨船に食糧・水
- ・ 日本に不利な条約?

日本は戦うべき?それとも開国するべき?

戦うべき

- ・ キリスト教がまた広まり幕府の力が弱くなる。
- ・ 言いなりはよくない。

開国すべき

- ・ 外国の文化が入る。(鉄砲のように)
- ・ 戦えばぎせいがでる。
- ・ 仲よくしていけばいいのでは。

【電子黒板】

「米船渡来旧諸藩土固之図」

「サスケハナ号(黒船)」
(社会科資料集)

- ・ サスケハナ号と千石船の比較

「ペリーの似顔絵」
(怖い顔, 3枚)